

2月24日
くさか 景子 議員

代表 **一般** 質問
(会派 立憲民主党・民権クラブ)

質問要旨

1 明るい未来の実現に向けた取組について

(4) 学校と地域の連携・協働による中学生への学習支援について

県教育委員会では、市町村教育委員会や学校と連携して「かながわ学びづくり推進事業」を実施し、学校の授業をよりよいものに改善していく取組を進めていると承知しているが、これからは、学校と地域が相互に連携・協働し、一体となって生徒の成長を支えていく取組こそが大切になると考えている。

そして、中学生への学習支援を行っていく際には、その生徒の実情等を把握している学校と、地域住民や学生、団体等の幅広い地域住民等と一緒に、協働していくことが重要である。

こうした取組は、基本的に、市町村教育委員会が取り組むもので、茅ヶ崎市以外の地域にも一定程度あると承知しているが、より多くの地域にも広がってほしいと願っている。

そこで、学校と地域の連携・協働による中学生への学習支援を充実する必要があると考えるが、所見を伺う。(教育長)

答弁要旨

教育関係のご質問にお答えします。学校と地域の連携・協働による中学生への学習支援について、お尋ねがありました。

様々な理由によって、学びの習慣が十分に身につけていない中学生に、学校と地域が連携・協働して、学習支援に取り組むことは重要です。

現在、市町村は、国の事業を活用しながら、地域の協力を得て、中学生の学びを支える取組を進めており、県教育委員会は広域的な役割から、その取組を支援しています。

具体的には、退職教員などの地域人材が、放課後や休日に、学校や公民館等で、中学生の学習支援を行う市町村に対して、その活動経費を補助しています。

また、県内外の大学と連携し、授業中の学習支援や、休み時間の相談相手となる大学生ボランティアを「スクールライフサポーター」として募り、毎年、200人程度を小中学校に派遣しています。こうした中、市町村からは、スクールライフサポーターを、学校だけでなく、地域の学習支援の場でも活用したい、という声をいただいています。

そこで、県教育委員会では、今後、スクールライフサポーターの派遣の範囲を、地域の学習支援にも広げられるよう、大学生に対する募集方法などを工夫していきます。

また、中学生の学習支援に積極的に取り組んでいる、市町村の事例を収集し、市町村教育委員会と共有して、取組の横展開を図っていきます。

県教育委員会としては、こうした取組により、学校と地域の連携・協働による中学生の学習支援の取組を、今後もしっかりと支援してまいります。答弁は以上です。

要望

今、教育長から前向きな答弁をいただきまして、スクールライフサポーターを地域に広げていきたいということで、大変、今後に期待できると思っております。

東京は例えば受験生チャレンジ支援貸付支援事業や渋谷区ではスタディクーポンチケットを発行して、塾に行けない人たちにクーポンを渡して塾に行ったり、スポーツしたり、色々な文化施設に使える取組を行っています。神奈川県はこれからスクールライフサポーターを地域に拡大していくということに、大変期待したいと思っております。

親の経済状況や家庭の状況によって、子どもの学習機会がそがれたり、学ぶ機会を失ったりすることがないように、県教育委員会には福祉部門とも連携していただいて、是非取り組んでいただきたいと切に願います。

